

三条市子ども・若者総合サポートシステム
平成 24 年度活動実績・平成 25 年度活動計画
【障がい支援部会】

《平成 24 年度活動実績》

1 障がい支援部会 対象者の把握状況と対応

(1) 把握件数（平成 25 年 3 月末現在）

区分	障がい			
人数（人）	295			
他の区分と重複している件数	虐待 17	非行 5	不登校 7	若者 1

(再掲)「個人情報の取扱いに関する同意書」提出件数

区分	障がい
人数（人）	43

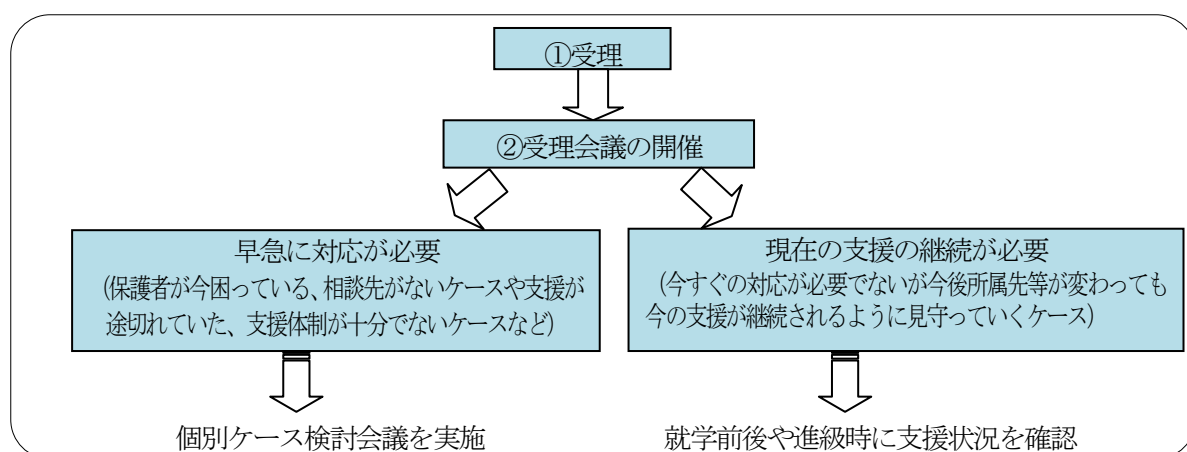
(参考 1) 平成 25 年度特別支援学級に在籍する児童生徒数ならびに学級数

学級種別	区分	市内小学校		市内中学校		計	
		学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数
知的障害学級		19	69	10	44	29	113
自閉・情緒障害学級		21	98	9	45	30	143
その他（肢体不自由・病虚弱）		2	3	1	1	3	4
合 計		42	170	20	90	62	260 (3.2%)

(参考 2) 平成 24 年度通常学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒数

問題項目	区分	市内小学校		市内中学校		計		国の平均
		人	%	人	%	人	%	%
学習面か行動面で著しい困難を示す		370	7.0	105	3.7	475	5.8	6.5
学習面で著しい困難を示す		215	4.1	53	1.8	268	3.3	4.5
行動面で著しい困難を示す		235	4.5	82	2.9	317	3.9	2.9
学習面と行動面ともに著しい困難を示す		80	1.5	30	1.0	110	1.4	1.2

(2) 「個人情報の取扱いに関する同意書」受理後の対応



(参考) 同意が無い「障がい」把握者への支援

乳幼児の場合→保健師、保育所（園）、幼稚園の保育士等の支援

小中学生の場合→学校での通常支援及び、通級指導教室（三条小学校・長沢小学校）や市が委嘱した特別支援学校職員による専門指導員の巡回支援等

2 障がい支援部会 会議開催状況

会議名	回	月 日	場 所	内 容 等	参加機関数
実務者会議	第1回	9月12日	三条市役所 栄 庁 舎	・発達障がいがある子ども等への支援の状況（情報交換・意見交換）	15機関
	第2回	25年 1月29日	グッデイいきいきサポートセンター	・三条市障がい支援体制について（説明・意見交換）	15機関
個別ケース検討会議		実2件 延4回		発達障がいがある子どもの長期休暇中の在宅生活における支援の検討を行った。	

3 研修会・講演会

会議名	月 日	場 所	内 容 等	参加人数
発達応援セミナー	第1回 8月8日	三 条 市 総合福祉 センター	演 題:積極的行動支援による実行可能で有効な支援のあり方 講 師:筑波大学 教授 藤原 義博 氏 対象者:小中学校教職員、特別支援教育指導員、保育園(所)・幼稚園職員	335 人
	第2回 25年 1月19日		演 題:親の立場から伝えたい「発達障がい児 どう向き合う? どう接する?」 ～悩んでいる保護者・地域住民へのメッセージ～ 講 師:NPO 法人えじそんくらぶ 長野 ChildDream 代表 阿部 優美子 氏 対象者:市民	140 人
専門研修会	25年 1月29日	グッデイ いきいき サポート センター	①三条市障がい福祉サービスについて(説明) ②グッデイいきいきサポートセンター施設見学 対象者:小中学校教職員、保育園(所)・幼稚園職員、支援機関職員等	45 人

4 成果・課題

活動の成果	活動から見えてきた課題
<ul style="list-style-type: none"> ・実務者会議では各支援機関、関係機関において発達障がいがある子どもの高校卒業までのライフステージごとに抱える課題を共有することができた。また、専門研修会を通し、学校卒業後の支援機関や福祉サービスについての理解につながった。発達障がいの早期発見・対応の必要性を再認識し、三条っ子発達応援事業の立案に至った。 ・障がいの問題だけでなく、家庭環境等問題が複雑なケースが増えており、子育て支援課、学校教育課、各学校との連携のシステムの中で、同意ケースについては、相談対応がしやすくなった。 ・支援のツールとして、すまいるファイルを就学相談の場に持参し、情報を提供する保護者が見られ、所属機関だけでなく、保護者の立場からも支援の引継ぎのツールとして活用されてきた。 ・幼保小の連携と合わせた小学校訪問により、支援が必要な子どもの就学先への情報提供と就学後の状況確認等、支援の引継ぎが、よりスムーズになった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発達障がいがある児への関わり方、対応方法について悩む保護者がおり、親の支援に視点を置いたトレーニング講座等の必要性を感じている。 ・高校進学後や高校卒業後、就労場面での発達障がい者の実態が十分に把握できていない。義務教育卒業者への支援のための実態把握が必要である。 ・支援ツールとして「すまいるファイル」の活用を促進するために、就学相談など具体的な活用場面を提示し、保護者・関係機関にさらに周知していく必要がある。 ・発達障がい児が成長するに応じて現れる思春期等の問題についての相談がみられることから、実務者のスキルアップが必要と感じている。 ・ケースが持つ問題の複雑さにより、実務に当たる職員が対応に悩むケースが増えているため、多角的な視点でケースの検討が行える「子ども・若者総合サポートシステム」に(各学校の特別支援コーディネーターを中心に)積極的につないでいくことが必要である。

《平成 25 年度活動計画》

1 会議開催予定

会議名	回	月	場 所	内 容 等
実務者会議	第1回	9月	三条市役所 栄庁舎	発達障がい支援体制について（仮）
	第2回	1月	三条市役所 栄庁舎	第1回で出された問題及び課題について検討
個別ケース 検討会議	随時	支援体制の検討が必要なケースについて関係者で検討を行う。		

2 周知活動

(1) 市民に対して

- ・早期療育事業等の利用児をはじめとする小学校就学前の子どもへの保護者に対し、子ども・若者総合サポートシステム及びすまいるファイルについて周知
- ・早期療育事業利用者や加配対象児の保護者へすまいるファイル「支援の記録」の活用の周知

(2) 関係機関に対して

- ・関係機関の実務者に対し、支援が必要な子どもに関するすまいるファイルの活用について周知
- ・小中学校の特別支援コーディネーター等を対象に、子ども・若者総合サポートシステムの運用及びすまいるファイル活用について周知

3 研修会・講演会

題名		月 日	場 所	内 容 等	参加 予定人数
発達応 援セミ ナー	第1回	8月6日	燕三条地場産セ ンターリサーチ コア	演 題：詳細未定（障がい者の能力開発、自己 実現の方策や就労するまでに必要な 要素、育て方） 講 師：(株) スワン 社長 梅津 歩 氏 対象者：小中学校教職員	300人
	第2回	1月	総合福祉 センター	発達障がいへの理解や対応についての研修会 演 題：未定 講 師：未定 対象者：市民	150人
専門研修会		1月	未定	障がい児支援に関するテーマ 対象者：実務者等	50人